

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（8月）

留学先：The University of Findlay

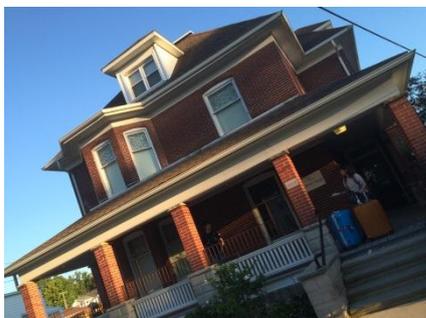
氏名：岸本有実子

【はじめに】

8月11日（火）、待ちに待ったアメリカでの生活がスタートしました。福井大学入学当初から憧れていた海外留学の夢が叶い、非常に嬉しく、誇らしく思います。

まだこちらに来て1週間と経っておらず、諸手続きが残っています。また、キャンパスの土地勘などもまだなく、教室にたどり着くのも一苦勞です。早くこの生活に慣れたいものです。今回は、留學生活のスタートの様子を一部報告したいと思います。

【留學生活のスタート】



私はシェアハウスに住んでおり、11人のハウスメイトがいます。同じハウスに福井県の奨学生の小野さんも一緒に住んでいます。日本にいる時点でルームメイトがいると聞いており、メールを交換していたのですが、ハウスに付いて二日後、その学生がハウスに住むのを辞めることをアシスタントから告げられました。その学生はまだチェックインしてなかったため、結局会わずじまいになってしまいました。ルームメイトとの生活についていろいろと想像していただけに、少しショックな出来事でした。今は実質一人部屋となり少し寂しいので、小野さんの部屋に行き小野さんと彼女のルームメイトと話をしています。

こちらに着いてすぐ、寮での生活のために生活用品を買ったのですが、こちらの製品がどのような品質なのかいきなりはわからないため、現地の日本語学科の学生が、買い物を手伝ってくれました。全てが新しい私たちにとって、このようなサポートが何より助けになっています。

授業や諸手続きについては、始めは（今もですが）わからないことだらけで、先生方のオフィスに毎日質問をしに行きました。関係のある先生方やアドバイザーの方々だけでなく、関係のないオフィスの方々もとても親切に対応してくれます。英語でのやり取りは大変ですが、聞き返しても笑顔で繰り返してくれます。今週から授業もスタートし、大変ななってくると思いますが、ついていけるようしっかりとセルフマネジメントをしたいと思います。

【新しい出会い】



空港についてすぐ、日本語学科の学生が出迎えてくれました。アメリカでの初めての出会いです。続いて他大学からの学生も続々と到着し、友達がいきなり増えました。こちらの学生は主にフェイスブックの機能を用いてやり取りしているようなので、すぐにお互いのアカウントを交換しました。こちらでの生活が始まるとすぐ、諸外国から来た留学生とも親くなりました。大学紹介によると、今年は45もの国々から留学生を受け入れているとのこと。すでにいくつかのイベントに参加し、スポーツ行事やフェスティバル、ボランティア体験を通してアメリカ、フィンランド、エジプト、ネパール、インドネシア、韓国、中国、北朝鮮などの国々から来た学生と話をしました。彼らの英語の能力には驚かされるばかりで、自信の能力を更に高めるためのよい刺激になっています。また、彼らからは母国語での基本的なあいさつや習慣なども教えてもらい、他文化への興味がますます湧いてきました。彼らも同じく日本の文化、言語に興味を持ってくれていることがわかります。特に日本語学科の学生と話しているときに、私たちが話す日本語を聞いて興味津々に「今のどういう意味？教えて！」と尋ねてきます。私もそのように学ぶ意欲を継続していきたいです。

【やりたいこと】

留学生活はまだ始まったばかりで、つい「まだ9か月以上ある」と思ってしまいがちです。しかし、実際にこの1週間がそうだったので、恐ろしく速く過ぎ去ってしまうように思います。日本を出る前に立てた目標を忘れず、かつ楽しく充実した毎日を過ごせるようにしていきたいです。そのために、私がここでやりたいことは3つあります。まずボランティア活動に定期的に参加することです。次に大学の講義を通して言語・文化交流をし、自分自身と日本についてもっと深く知りたいです。最後に各地を旅行することです。これらを通して人々と話すことはきっと自分の英語能力だけでなく、国際感覚を磨いたり新しい自分を発見したりすることにつながるはずです。

不安や焦りもありますが、こちらに来てからいい意味で「何とかなる」と学ぶことも多いので、何事も自分のためになると思って乗り越えていきたいと思っています。来月は秋学期の授業や参加したイベントなどについて報告します。それではまた来月の報告書で。